

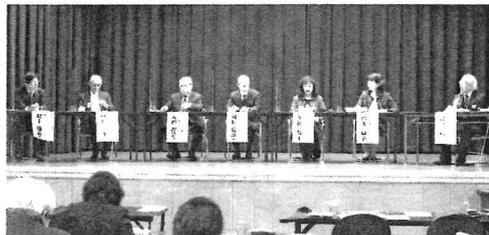
テーマは健康起因事故の背景

OCHIS セミナー開催

ヘルスケアネットワーク(OCCHIS)は2日、中央電気倶楽部で第16回OCHISセミナーを開催。テーマは「健康起因事故のさらなる背景を探る(合わせ技をどうする?)」で、同法人のSAS・高血圧・生活習慣・働き方等AS対策や健康起因事故防止の方策模索

などといった活動の紹介のほか、事業者を交えての意見交換などが行われた。

武田裕理事長のあいさつ後、第1部として国土交通省自動車局安全政策課課長の村上強志氏、大原記念労働科学研究所の酒井一博氏、全日本トラック協会交通・環境部 部長の大西政弘氏、による



3つの基調講演が行われた。第2部では黒田悦子保健師が、高血圧

対策の新しい試みについて講演し、後半はマイシン(愛知県豊橋市)総務部の山田真理子次長への健康対策に関するインタビュー映像が流された。安島なつき保健師は、「運輸ヘルスケアナビシステムとSAS対策の事業推進から」をテーマに、OCHISの目指す運輸業の健康管理へのサポートなどを紹介した。

OCHISの作本貞子副理事長は第2部総括として、「健診のあり方と情報の合わせ技」健康起因事故の背景を踏まえて」をテーマに講演。登壇者によるパネルディスカッションでは、運行管理者の役割や健診機関の理解などに関する意見が出された。武田理事長は「日本の運輸業界全体の安全・安心のために引き続き努力したい」と締めくくった。(木村麻理奈)